

御庵遺跡 第50地点

遺跡名	御庵遺跡
よみがな	ごあんいせき
調査地点	第50地点
主な時代	縄文時代中期（約5,250～5,100年前）
調査地	鶴馬二丁目3064番1
調査面積	2149.96㎡のうち、約35㎡
調査期間	令和5年5月12日～5月24日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代竪穴住居跡1軒</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代の土器、土製品（土器片錘）、石器</p> <p>【概要】</p> <p>御庵遺跡は、富士見江川と権平川の2つの流れに挟まれ、舌状に形成された台地の上に位置しています。今回の調査地点は遺跡南端近くの緩い傾斜地で、縄文時代中期前半（約5,250～5,100年前）の竪穴住居跡1軒が確認されました。住居跡の中央には、住居の床に土器を埋め込んで作られた炉「埋甕炉」が設けられており、東関東を中心に流行した「阿玉台式土器」の特徴を持つ土器と、中部地方～西関東を中心に流行した「勝坂式土器」の両方が炉体として残されていました。当時の関東に住んでいた人々の交流圏や、それぞれの土器が流行していた時期の前後関係を考える材料となる資料です。また、漁などに用いたおもり<small>おもり</small>であったとも推測されている「土器片錘」の集中した出土や、フチの部分に顔のような意匠の装飾を施した土器破片の出土も特筆されます。</p>



完掘された竪穴住居跡



住居跡中央部の「埋甕炉」



「土器片錘」が集中して出土した様子



顔のような意匠の装飾を施した土器の破片